

造形の要素と社会的な文脈を関連付けた鑑賞活動を通して、 生活や社会の中の美術や美術文化に対する見方・感じ方を深める授業

田代 豪

1 題材名

「アートプロジェクト⁽¹⁾・水と土の芸術祭 2018⁽²⁾」(2年)

2 目標

- 「水と土の芸術祭 2018」の作品鑑賞を通して、造形の要素と社会的な文脈を関連付けて、アートプロジェクトによる作品のよさや意味を説明することができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 作品にかかわりのある社会的な文脈を見だし、アートプロジェクトを鑑賞するための複数の造形の要素をとらえることができる。	○ 作品の造形の要素(形、色彩、材料、空間の効果)と社会的な文脈を関連付け、アートプロジェクトによる作品のよさや意味を説明することができる。	○ 作品が生活や地域に発するメッセージを感じ取り、美術が生活や社会の中で果たす役割を理解しようとしている。

4 本単元を学習する意義

美術館などの施設の場合、展示空間は、作品の見え方に干渉しないことが求められている。そのため、全国どこの施設でも鑑賞者は同じように作品を味わうことができる。これは、ホワイトキューブと呼ばれる展示である。このホワイトキューブに反発し、どこに設置しても同じように味わえる作品ではなく、その場所、その一瞬の状況を反映し、展示された場所の意味を加味することで作品として成り立つ展示もある。アートプロジェクトである。国内では、1990年代半ばからアートプロジェクトによる表現形態が各地域で目立ち始めるようになった。

生徒はこれまでの鑑賞の活動で、造形の要素を根拠に作品のよさや美しさを感じ取り、主題を読み解いてきた。しかしながら、作品が制作された当時の時代背景や思想、哲学などといった社会的な文脈を加味して、主題を読み解くまでには至っていない。まして、自分たちと同時代を生きる作家が社会をどのようにとらえ、問題意識をもっているのか、関心をもっている生徒は少ない。いつの時代も美術作品は時代を写す鏡の役割を果たしている。そのた

(1) 美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈で作品をとらえたり、作品の制作のプロセスを重視し、人と人とがつながって、作品を媒介に地域を活性化させようとしたりする共創的芸術活動のこと。

(2) 2009年から始まった新潟市主催の芸術祭。「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える～」という継続する基本理念のもと3年に1度開催されている。4回目となる今回は「メガ・ブリッジ—つなぐ新潟、日本に世界に—」というコンセプトが設けられ、アートプロジェクトには二つの柱が設定された。一つは、古来世界を構成する四元素と考えられてきた地(土)、水、火、風(大気)に焦点を当てたものである。もう一つは、日本海に面した新潟の過去と未来にかかわるものである。

め、美術作品に関心をもつことは、社会に関心をもつことにつながってくる。

とりわけアートプロジェクトは、同時代の社会に寄り添うことを是とするため、社会的な文脈は作品にとって不可欠な要素となっている。生徒が、アートプロジェクトによる作品のよさや意味を理解することにより、これまでの美術の概念を崩し、社会と美術のかかわりから美術の概念を新たに獲得することができる。例えば、「美術は、先人たちの作品を美術館や博物館でよさや美しさを感じ取るもの」という概念をもった生徒が、「美術は、私たちと同時代を生きる作家がよりよい社会を築こうとして問題提起したことを読み取るもの」というように新たな概念を獲得することができる。そこで、生徒が実際にアートプロジェクトによって企画された作品を見て、体感できる鑑賞の題材として「水と土の芸術祭 2018」を取り上げる。生徒は、造形の要素を手掛かりにしなが、作品から、水と土の関係、新潟の歴史風土という社会的な文脈を見だし、それらを関連付けることで、作品を読み解いていく。そして、美術が社会の中で果たす役割を理解し、アートプロジェクトによる作品に対する見方や感じ方を深めていくこととなる。

5 本単元における手だて

<手だてア>

社会的な文脈から作品をとらえる活動を組織する。

作品の造形の要素と社会的な文脈を関連付け、アートプロジェクトによる作品をとらえるという資質・能力を発揮させるために行う。

○ 造形の要素だけでは読み解けない作品を提示する

これまでの鑑賞活動から生徒は、制作当時の作者の心情や表現の工夫を関連付け、造形的な作品のよさや意味を感じ取ることができた。しかしながら、生徒と同時代を生きる作者が今の社会をどのようにとらえ、作品として発表しているのか、社会的な文脈と表現の工夫を関連付けて、作品を読み解くまでには至っていない。そのため、新潟市内で開催されている「水と土の芸術祭 2018」の作品が市内で展示されていても、何が作品のよさや意味なのか感じ取れる生徒は少ない。そこで、従前の作品の見方だけでは、作品のよさを理解することができないことを知るために、アートプロジェクトによる作品を提示する。

最初に、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」⁽³⁾、中魚沼郡津南町に設置されている、内海昭子『たくさんの失われた窓のために』を提示し、「この作品のよさや意味は何ですか」と問う。生徒は、大きな窓枠とカーテンを手掛かりに作品のよさを見いだそうとするが、何がよさなのか実感を伴って説明することができない。



【たくさんの失われた窓のために】

(3) 過疎高齢化の進む日本有数の豪雪地・越後妻有（新潟県十日町市，中魚沼郡津南町）を舞台に、2000年から3年に1度開催されている国際芸術祭。2018年で7回目を迎えた。

続けて、高橋伸行が「瀬戸内国際芸術祭」⁽⁴⁾で展示した、『大島 やさしい美術プロジェクト』から碁盤の上に置いてあるスプーンの写真を提示し、「この作品のよさや意味は何ですか」と問う。この発問により生徒は、作品のよさを感じ取る以前に「どうしてこれが作品なのか」という疑問をもつ。



【やさしい美術プロジェクト】

○ 作品の社会的な文脈を基に作品を読み解く

アートプロジェクトによる作品に疑問をもった生徒に、作品の社会的な文脈を示す。『たくさんの失われた窓のために』では、越後妻有の自然の豊かさ、中越大震災、過疎高齢化という要素を示す。また、『大島 やさしい美術プロジェクト』では、この展示施設がハンセン病の施設であることを示す。そして、再び、「2つの作品のよさや意味は何ですか」と問う。この発問により生徒は、これまで美術作品を見る観点ではなかった、作品が展示される環境や歴史的、政治的な意味合いという社会的な文脈から作品を読み取ろうとする。2つアートプロジェクトの作品の提示により生徒は、既習の造形の要素を根拠としていただけでは現代の美術作品のよさを理解できないことに気付き、作品が制作された社会的な文脈を関連付けることで、作品のよさや意味を感じ取れることを理解する。このように段階的にアートプロジェクトによる作品を示していくことにより、生徒はアートプロジェクトによる作品の見方を知ることができる。生徒は、これまで意味や価値を見いだせなかったアートプロジェクトによる作品に関心をもち始める。

○ アートプロジェクトによる作品を実際に鑑賞する活動を組織する

社会的な文脈から作品を読み解くことを知った生徒に、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」がアートプロジェクトと呼ばれる表現形態であることを示す。展示場所の環境や生活空間、歴史、政治、文化などに作者は注目し、作品に組み込んでいることを説明する。また、現在新潟市で行われている「水と土の芸術祭 2018」展示作品もアートプロジェクトによってつくられた作品であることを告げる。そこで、「水と土の芸術祭 2018」のメイン会場となっている万代島多目的広場に展示されている作品を実際に鑑賞する活動を組織する。生徒は、実際の作品を目の当たりにした時、これまでの学習から、造形の要素と社会的な文脈から作品をとらえようとし、「どうしてこの作品が水と土の芸術祭の作品なのだろう」という問題意識が醸成される。そして「展示されたアートプロジェクトによる作品を読み解いてみたい」という目的意識が醸成され、次の課題を見いだす。

(4) 瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代美術の国際芸術祭。3年に1度開催される。瀬戸内の島々で展示される美術作品、アーティストや劇団・楽団などによるイベント、地元伝統芸能・祭事と連携したイベントなどで構成されている。

<本題材における課題>

アートプロジェクトによる作品のよさや意味は何だろう

<手だてイ>

自分の考えの根拠を写真で撮影する活動を組織する。

「水と土の芸術祭」の理念やコンセプトと二つの柱を踏まえながら、作品にかかわりのある社会的な文脈を見だし、複数の造形の要素を基に、アートプロジェクトをとらえるという資質・能力を発揮させるために行う。

そのために、新潟市で開催されている「水と土の芸術祭 2018」万代島多目的広場での作品鑑賞活動を組織する。そこで、生徒に次のように指示する。「作品を読み解く際に手掛かりになることや疑問になることを写真で撮影しなさい」。この指示により生徒は造形の要素と社会的な文脈を見いだそうとし、作品を撮影する。生徒は、展示物の造形の要素に着目し、作品の材料、造形物の構成、展示の仕方など写真で撮影する。また同時に「これは何だ」という疑問を抱いた展示物も撮影する。

万代島多目的広場での作品鑑賞活動後、生徒の撮影した写真を印刷し「どうしてこの写真を撮ったのですか」と発問する。この発問により生徒は、作品を読み解く際に手掛かりになりそうな造形の要素や社会的な文脈、疑問点を明確していくことができる。

<予想される生徒の写真と撮影の理由>

岩崎貴【untitled】

Ⓔ：作品を読み解く際の手掛かりになること

Ⓢ：疑問に思ったこと



- ・ 木で細かく橋がつくられている。
- ・ 水面に橋と空が写り込んでいる。
- ・ どうして、壊れた橋をミニチュアで再現しているのか？
- ・ なぜ鉄塔があるのか？



- ・ 作品が設置された対岸にピア万代がある。
- ・ 大きな水たまりをあえてつくっているのはなぜ？
- ・ どうしてミニチュアでなければならなかったのか？



- ・ なぜプラスチックや木箱（トロ箱）が積まれているのか？
- ・ なぜデッキブラシのこぎりがあるのか？

続いて、生徒は、作品を見て感じて疑問に思ったこと、作者のこと、新潟のこと、水と土の芸術祭のことなどを、書籍やタブレット端末を用いて調べる。この活動を通して生徒は、根拠をもって造形の要素と社会的な文脈を関連付けられるようになっていくようになる。

<手だてウ>

感じ取った作品のよさや意味について批評できる場面を設定する。

作品の造形の要素（形、色彩、材料、空間の効果）と社会的な文脈を関連付け、アートプロジェクトによる作品のよさや意味を説明するという資質・能力を発揮させるために行う。

○ 作品を批評するために必要なポイントを学級全体で共有する

自分が見いだした造形の要素と社会的な文脈をどのように関連付けて作品を読み解けばよいのか確認する。生徒に「万代島多目的広場に展示された作品を読み解くために、必要なポイントは何ですか」と問う。この発問により生徒は、造形の要素と社会的な文脈のどこに焦点化して関連付けなければならないか考える。その結果、展示作品、学芸員の話やパンフレットの解説から「地（土）、水、火、風（大気）、生命」を踏まえながら、作品の造形の要素となる形、色彩、材料、空間の効果と、社会的な文脈となる「作家が着目した新潟らしさ」の関連付けがポイントとなることを共有し、自分が着目した作品を読み解いていく。

<検討前の生徒 A の作品の読み解き>

岩崎貴宏【untitled】について

この水溜まりは、信濃川の氾濫を表していると思った。なぜなら、この水溜まりの形は日によって形が変わり、人がコントロールして作っているわけではないからだ。水溜まりを信濃川とするなら、橋は新潟を象徴する萬代橋になる。橋が壊れているのは信濃川の氾濫による水害の歴史を表しているのではないだろうか。

また、水面に反射させることで外の景色が映り込み、今の新潟の景色と、ミニチュアで象徴された新潟の歴史が重なるところがこの作品のよさだと思う。

○ 異なる意見をもった生徒同士をグルーピングし、互いの意見を批評する場面を設定する

造形の要素と社会的な文脈を関連付けて自分なりの作品の価値意識をもたせる。その上で自分とは異なる意見をもった生徒同士をグルーピングし、作品の疑問点をグループで明らかにさせていく。生徒は、自分が気付いたことや調べたことを手掛かりにして、疑問点に対する自分なりの答えを推察していく。これにより批評前にもっていた作品の価値意識が揺らぎ、再構成が促される。その結果、生徒は、疑問点に対して推察したことと自分の解釈を関連付けて、アートプロジェクトによる作品の見方や感じ方を広げ深めていくことができる。この姿が、資質・能力が高まった姿そのものととらえる。

<予想される生徒の意見>

作者名：岩崎貴宏 作品名：untitled

○ 異なる意見をもった生徒のグルーピング

- A：展示空間に疑問をもっている。
- B：壊れた橋と水から新潟の歴史を見いだしている。
- C：水面に着目して作品のよさを見いだしている。
- D：造形物の構成に疑問をもっている。

C：水面が鏡のようになって、本物の橋のように見えた。また外の景色が水面に反射したり、風で水面が揺れたりして、きれいだった。



B：橋が壊れているところ、水が自由に移動しているところ、水の流れを制御しようとしているところに、水との戦いの歴史が表されているのではないかと思った。だから、新潟の歴史が表されている作品だと思った。



A：あと、キュレーターの長縄さんは火災で焼け落ちた萬代橋を再現しているって言うていたから、火と水の歴史が表されているんだよ。でもどうして、周りに木箱やプラスチックの箱があるのか意味がわからない。別になくてもいいのではないか。

C：それは、大かま会場がかつて魚の荷揚げ場だったから、場所の意味を出しているんだと思うよ。



D：どうして鉄塔があるんだろうか。意図が分からない。

B：萬代橋の昔の写真を検索したら、デザインは違うけど鉄塔は確かにあった。だから、このミニチュアは新潟の歴史を表しているんだよ。

C：周りの木箱やのこぎりがあるのは、周囲の木箱でミニチュアを作ったことを表しているんだよ。木箱と水揚げ場の意味が作品にはあるんだよ。

D：木箱で萬代橋なら、プラスチックそのものは使われていないから、箱に入っていたエビのひげじゃないかな。

B：えっ。エビのひげで鉄塔を作ったってこと。すごすぎる。

<検討後の生徒 A の作品の読み解き>

岩崎貴宏さんの「untitled」は初代萬代橋の模型により、新潟の歴史を表している作品だ。崩落した初代萬代橋の下に水を流すことで、信濃川の氾濫が想起され、水との戦いの跡が表されている。また、この作品は、かつて水揚げ場だったことから、水や魚とのかかわりがあり、対岸には現代と過去が対比されたようにピア万代⁽⁵⁾がある。加えて、建物の構造上、水は建物の外側に流れるような設計になっていて、水が自然と流れることにより様々な水の形が生まれ、新潟の潟の形のような水溜りになる。この水溜りに外の景色が写り込むことにより、今の新潟が映し出される。

また、ミニチュアの方法になっているのは、魚介類を運ぶのに使った木箱と、プラスチックの箱に残っていたエビのひげである。このようなミニチュアの仕掛けを周囲に残すことで、新潟の歴史や展示場所の意味が造形物に関連付けられている。

このように、この作品は、水と初代萬代橋の模型により、新潟の過去と現在の姿を対比した作品となっており、過去と現在をまさしく橋でつないでいる作品だと思う。

(5) 米・酒・魚・肉・野菜・果実・生花といった新潟県の特産品が集まった商業施設。

<参考文献・引用文献>

水と土の芸術祭ホームページ 2018. mizu-tsuchi.jp/

熊倉純子 2018 「アートプロジェクト 芸術と共創する社会」 水曜社

水と土の芸術祭 2018 実行委員会事務局 2018 「水と土の芸術祭 2018 公式ガイドブック」

北川フラム 2010 「大地の芸術祭」 角川学芸出版

6 本題材における構想 (全5時間 本時4/5)

目的意識	生徒の意識	学習活動・学習内容	教師の指導・支援	評価の観点 評価の方法
社会的な文脈からアートプロジェクトの作品を読み解いてみたい	なぜこれが作品なのか 展示場所の環境や意味が作品に関係するんだ	① アートプロジェクトについて知る活動 ○ 展示地域のもつ意味から内海昭子『たくさんの失われた窓のために』を知る。 ○ 展示場所の意味と展示物の意味を関連付けて、高橋伸行『大島 やさしい美術プロジェクト』を知る。 ○ アートプロジェクトによる作品制作を知る。	○ 内海昭子『たくさんの失われた窓のために』では、山間部の景色に加えて、中越地震、過疎地域という地域のもつ意味から作品を読み解く。 (手だてア) ○ 高橋伸行『大島 やさしい美術プロジェクト』から、喜びや痛みの共感から、作品を読み解く。 (手だてア) ○ アートプロジェクトによる作品制作の特徴について説明する。 ○ 「水と土の芸術祭 2018」チラシと「水土チャレンジ」を配布する。 ○ 作品を読み解く際に手掛かりになることや疑問になることを写真で撮影させる。 (手だてイ)	【知技】WS
	水と土の芸術祭の作品を見てみたい	② 「水と土の芸術祭 2018」の鑑賞活動 ○ 「水と土の芸術祭 2018」大かま会場の8作品を鑑賞する。	○ 「水と土の芸術祭 2018」チラシと「水土チャレンジ」を配布する。 ○ 作品を読み解く際に手掛かりになることや疑問になることを写真で撮影させる。 (手だてイ)	【知技】写真
	この作品のよさや意味は何だろう	【本題材における課題】 アートプロジェクトによる作品のよさや意味は何だろう ○ 8作品を読み解くための手掛かりと疑問点をまとめる。 ○ 作品を見て感じて疑問に思ったことを書籍やタブレット端末で調べる。 ○ 展示作品を読み解くポイントを共有する。 ・ 読み解きが多かった作品を取り上げ、「地(土)、水、火、風(大気)」を踏まえて、造形の要素(形、色彩、材料、空間の効果)と「作家が着目した新潟らしさ」を関連付けて作品を読み解くことを共有する。	○ なぜそのような写真を撮影したのか、気付いたことや疑問に思ったことを写真レポートにまとめさせる。 (手だてイ) ○ 8作品から3作品選ばせ、写真レポートにまとめさせる ○ 疑問に思ったことなどを書籍やタブレット端末で調べさせる。 ○ 作品を読み解くために必要なポイントを共有する。 (手だてウ)	【知技】WS
	ポイントをおさえないと説明できないな	○ 展示作品を読み解く。 ・ 写真レポート3作品から1点選び、作品の意図を読み解く。 ・ 読み解きで関連付けられなかった疑問点についてまとめる。	○ 写真レポート3作品から1点選ばせ、作品のよさや意味についてまとめさせる。 ○ 記述された内容を基に、グルーピングする。	【思判表】WS
そんな考え方もあるんだ	③ 万代島多目的広場の作品について批評する活動 ○ 選んだ作品について疑問点を出し合い、グループ内で解釈を検討する。 ・ 「地(土)、水、火、風(大気)」と、「作家が着目した新潟らしさ」を関連付けて作品を読み解く。 ・ 出された疑問点に対して推察したことを共有しながら作品を読み解いていく。 ○ グループ内での批評を踏まえて、自分の作品の解釈について加筆・修正する。	○ 作品の疑問点は何ですか。グループ内で明らかにさせる。 (手だてウ) ○ タブレット端末などで疑問点などを検索し、調べさせる。 ○ 作品のよさや意味は何か。作品の解釈について検討させる。 ○ グループ内での検討を踏まえて、作品の解釈を加筆・修正させる。	【思判表】模造紙	
グループで出された意見を加えよう				【思判表】WS
美術作品は現代を生きる人たちにいろいろなことを投げかけているんだ	④ 活動の振り返り ○ アートプロジェクトの作品、美術作品と社会とのつながりについての見方・感じ方の変容を記入する。 ○ プロGRESSカードを記入する。	○ 事後レポート、PROGRESSカードを記入させる。	【思判表】WS 【主態】WS PROGRESSカード	

7 本時授業

(1) 前時までの学習を終えた生徒の実態

- 「水と土の芸術祭 2018」万代島多目的広場に展示された8作品を鑑賞し、3作品について読み解く手掛かりと疑問点を写真レポート（ワークシート3）にまとめている。
- 作品を見て感じて疑問に思ったことなどを書籍やタブレット端末を使って調べている。
- 作品を批評するために必要なポイントを共有している。
- 写真レポート3作品から1点選び、自分なりの作品のよさや意味をワークシート4にまとめている。

(2) 本時のねらい

感じ取った作品の疑問点について批評し合う活動を通して、万代島多目的広場に展示された作品のよさや意味を説明することができる。

(3) 評価

○ 評価の観点 思考・判断・表現

A	B
芸術祭の理念やコンセプトと柱を踏まえて、造形の要素（形、色彩、材料、空間の効果）と社会的な文脈（作家が注目した新潟らしさ）を関連付けて、万代島多目的広場に展示された作品のよさや意味を説明することができる。	芸術祭の理念やコンセプトと柱を踏まえて、造形の要素（形、色彩、材料、空間の効果）を根拠に展示された作品のよさや意味を説明することができる。

(4) 本時の展開

学習活動・学習内容と生徒の姿	教師の支援・指導 ■ 評価の観点・方法
① 疑問点のまとめ方について確認する。 ○ 岩崎貴宏『untitled』の疑問点を明確し模造紙へのまとめ方を全体で確認する。 疑問：なぜ今の萬代橋ではなく、昔の萬代橋をつくったのか。 推察：新潟の歴史を表したかったのだと思う。それも会場にかかわりのある木箱で造るから、木製でつくられた初代萬代橋をつくったのだと思う。	<発問> この作品の疑問点は何ですか。
	○ 出された疑問点を黒板に貼った模造紙に書き込む。 <発問> この疑問点をどのように推察しますか。
	○ 推察したことについて模造紙に書き込む。 ○ 推察したことの根拠について説明がなければ問う。

疑問：どうして水溜まりを使い反射させたのか。

推察：自然な形の水溜まりをつくることで人の力ではコントロールできない自然の力を表していると思う。反射させることで、外の景色を映り込ませることができるから。

疑問：窓際の信濃川周囲が見えるように置かれている場所には意図があるのか。

推察：対岸にはピア万代が見える。会場はもともと、魚の卸売場だったから、今と昔を対比しているのではないだろうか。

② 作品の解釈が異なる生徒を構成したグループで批評を行う。

- 作品の疑問点を出し合い、必要な情報について調べる。
- 4人～6人1グループ
- 司会1人、記録1人

- 自分なりの価値意識をもって作品を解釈した生徒に、自身の作品の疑問点を他者と共有するよう促す発問を行う。 **(手だてウ)**

<発問>

作品の疑問点は何ですか。模造紙を使いグループ内で明らかにしなさい。

- 言葉の意味や、新潟の歴史など分からないことがあれば、タブレット端末を用いて検索して調べる。

- 評価の観点：思考・判断・表現
- 評価の方法：模造紙

○松井紫朗 『Soft Circuit』『Fish Loop』を選んだグループ

<検討前生徒Aの作品解釈>

『Soft Circuit』は、「風（大気）」と「水」に焦点を当てた作品だと思う。風（大気）は、本来、目で捉えにくい対象である。この作品は、大きなチューブで空間をつくることにより、風（大気）に形を与えている。チューブの中に入ることにより、チューブが縮小や膨脹をしていることを体感し、まるで生き物のように風（大気）をとらえることができる。また、信濃川の水が調整され堀となったように、作品の形が水の流れを表している。

<グループ編成>

生徒A：『Soft Circuit』も『Fish Loop』の関係性について注目しているが解釈まで至らない。

生徒B：『Soft Circuit』に入ることによって体感できる空間の面白さを見いだしているが、新潟らしさに疑問をもっている。

生徒C：「水」と「風」に着目しているが新潟らしさが分からない。

生徒D：大かま会場の特徴に着目しているが、作家の注目した新潟らしさに疑問をもっている。

<作品の疑問点についてグループ内の検討>

生徒A：『Soft Circuit』も『Fish Loop』も管の中に人や魚が入る点は共通していることは分かるんだけど、それが何を意味するんだろう。

生徒B：魚が管に入って地表に出て再び水に戻る『Fish Loop』と、人が空間に入って中から外を見る『Soft Circuit』は、作品が共に外と内をつなぐ「架け橋」の役割になっているんじゃないかな。

生徒C：『Fish Loop』の中に魚が入った感覚を、『Soft Circuit』に入った人が同じように体験できることなのかな。

生徒B：そこに松井さんが注目した新潟らしさがどうかかわってくるのかな。

生徒A：松井さんは他の場所でも同じようなバルーンの空間をつくっているから、今回は『Soft Circuit』と『Fish Loop』をセットにしていることが重要なんだよ。新潟の海、魚、あと何だろう。

生徒C：「地水火風」の中から「水」と「風」は作品に関係するから、新潟らしさもそこにかかわってくるんじゃない。

生徒D：新潟らしさは、この会場が川の近くで水と風を使えるから作家は注目したんじゃないのかな。

- グループ内で出された疑問点と推察したことを学級全体で共有する。

- 疑問点について、自分の解釈や調べたことから推察させる。またその根拠を自分が撮影した写真や、実際に作品を見て感じたこと、作品の解説から説明させていく。
- 模造紙にグループ内で出された疑問点と推察したことを描き込んでいく。また、手掛かりとなる作品の写真を貼り付けていき、検討の内容を可視化する。
- 机間指導で、出された疑問や推察したことで、芸術祭の理念やコンセプトにかかわることや、新潟の歴史や文化などと強く関連付けが行われているグループを抽出しておく。
- 疑問点について推察ができず、検討が進まないグループには、どこまで推察できて、どこからできないのか確認する。その上で、作品全体を見させて、見落としていることはないか作品を見直させる。また、作家による作品の解説に手掛かりとなるキーワードがないか探させる。

<指示>

グループ内での検討内容を説明しなさい。

- 机間指導で注目したグループに説明させる。
- 推察したことの妥当性を問い、感想や疑問点を他グループから出させる。
- 説明に対する疑問の返答については、説明したグループだけでなく、学級全体で妥当性を考える。

＜学級内での意見交流＞

グループの代表者：私たちのグループは、松井紫朗さんの『Soft Circuit』と『Fish Loop』について検討しました。疑問点で『Soft Circuit』と『Fish Loop』がなぜセットになっているのかということと、作家が注目した新潟らしさは何かということが出ました。この疑問に対して私たちは、『Fish Loop』の中に魚が入った感覚を、『Soft Circuit』に入った人が同じように体験できるための装置なのかなと思いました。そして、この作品が川の水を汲んでいることや外の風を取り込んでいることから、新潟の自然に松井さんは注目したのではないかと思いました。

他グループからの質問：『Soft Circuit』と『Fish Loop』の関係は分かりましたが、新潟らしさという点では、少し足りない感じがします。

他グループからの返答：新潟らしさは、この会場の空間ではないでしょうか。大かまの会場は天井が高く、仕切りになる壁がありません。だから、窓やドアを開放して作品全体が建物の外に出て内側の空間になったり、会場内の仕切りの役割を果たしたりしています。だから、新潟らしさというのとはちょっと違うけど、この会場の場所が作品の意味やよさに大きくかかわっているんじゃないでしょうか。

- 「地（土）、水、火、風（大気）」を踏まえて、作家が着目した新潟らしさと造形の要素の関連付け方について着目し、その根拠となるものを説明させる。
- 出された質問とその返答を板書する。
- 質問や返答にかかわる作品の写真をモニターで提示する。
- 展示作品を読み解くポイントを踏まえているか確認する。

③ 自分の作品の解釈を加筆・修正する。

- グループ内で出された疑問点と推察した答えを踏まえて、自分の作品の解釈を加筆・修正する。

＜検討後の生徒Aの解釈＞

『Fish Loop』の中に魚が入った感覚を、『Soft Circuit』に入った人が同じように体験できるための装置になっている。『Fish Loop』では「水」を、『Soft Circuit』では「空気」を取り込んで、内側と外側を循環している。これが作家の言う「架け橋」となって、魚類から人への生命の進化を表しているのではないだろうか。また、『Soft Circuit』の全体の形は染色体のような形となっていて、空気の入りで膨らんだり縮んだりして生命体のようにしている。

そして、新潟らしさは、大かま会場の立地と空間である。会場の脇を信濃川が流れているか

＜指示＞

学級・グループ内での検討を踏まえて、作品のよさや意味をワークシート5に書きなさい。

- 評価の観点：思考・判断・表現
- 評価の方法：模造紙

ら『Fish Loop』と『Soft Circuit』を設置することができた。また、大かまの会場は天井が高く、仕切りとなる壁がない。だから、窓やドアを開放して、作品全体が建物の外に出て外側の出っ張った空間や館内の内側の空間を作ることができた。

